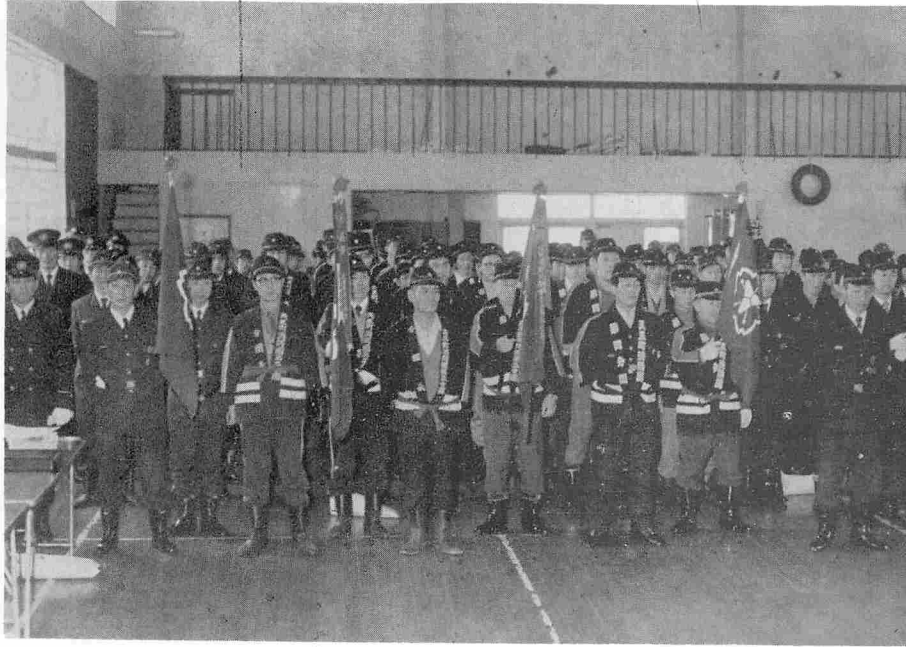


町報 てんのう

発行・秋田県天王町役場 電(018878)2211~4
編集・企画室 印刷・秋田協同印刷 電(0188)237477~8

町のうごき	
本籍数	5,141
本籍人口	15,913
世帯数	4,210 (4,209)
住民登録人口	15,485 (15,438)
内	{男 7,499 女 7,986
12月1日現在	
()内は11月1日現在	

▶威風堂々と整列した各消防団員



町民を火災より守る

おらが町の勇姿

八日に恒例の出ぞめ式

町消防団恒例の出ぞめ式が一月八日町公民館に消防関係者多数出席して行なわれた。

午前十時半、町内十二の分団から二百三十八名の団員が会場に勢ぞろい、各分団ごとに整列し、勇壮な姿を見せ、無火災と団員の安全を祈願した。

当日は、有功章に輝いた松村政雄氏の他、永年におたつて消防業務に功績のあった百二十名が表彰された。

また、防火水槽用地を無償で貸与した方なども表彰された。

- 県知事表彰**
- ☆有功章
 - 【第一分団】松村政雄(分団長)
 - ☆三十年勤続章
 - 【第一分団】松村政雄(分団長)
 - 【第二分団】大関栄治郎(副分団長)
 - 【第三分団】三浦直蔵(班長)、堀井佐一郎(同)、児玉孝雄(団員)。
 - 【第三分団】伊藤庄吉(分団長)、藤原新蔵(副分団長)、藤原秀一(班長)、藤原勝雄(同)。
 - 【第四分団】菊地石太郎(分団長)、菊地東太郎(副分団長)
 - 【第五分団】三浦久之助(副分団長)、三浦孫四郎(班長)

- 三浦五郎二(同)、吉田伝吉(同)、三浦友栄(同)、三浦亀治(団員)、菅原清(同)、吉田慶太郎(同)、三浦重春(同)、三浦甚五郎(同)
- 【第六分団】安田秀男(副分団長)
- ☆二十五年勤続章
 - 【第一分団】小柳良雄(班長)
 - 高橋新一郎(団員)
 - 【第四分団】菊地堅一郎(班長)
 - 【第七分団】桜庭永一(団員)
 - ☆二十年勤続章
 - 【第六分団】鈴木美夫(団員)
 - 鈴木為春(同)、安田金春(同)
 - 嶋崎竹市(同)
 - 【第七分団】桜庭金吾(団員)
 - 【第八分団】加賀谷竹雄(団員)、佐々木肇(同)
 - 【第十分団】菅生福太郎(班長)、桜庭敬治郎(同)、戸田秋一(同)
 - 【第十一分団】菅生市蔵(副分団長)、菅生嘉市郎(班長)
 - 菅生伊治(同)、菅生重清(団員)、菅生一男(同)

- 県消防協会長表彰**
- ☆精勤章
 - 【第二分団】戸田利幸(団員)
 - ☆勤続章
 - 【第七分団】桜庭金秋(団員)
 - 【第九分団】水沢正夫(団員)
 - 佐々木鐘吉(同)
 - ☆功労章
 - 【第八分団】加賀谷豊治(班長)、加賀谷久治郎(同)、佐々木孝市(同)、佐々木芳三(団員)
 - 【第二分団】京谷金治郎(班長)
 - 【第七分団】桜庭兼太郎(班長)、桜庭兼太郎(同)
 - 【第十二分団】菅原幸太郎(班長)
 - 【第三分団】伊藤金一(班長)
 - 【第六分団】目黒久治(班長)

男鹿南秋支部長表彰

- ☆七年勤続章
 - 【第一分団】天野吉基(団員)
 - 【第三分団】藤原金広(団員)
 - 児玉一夫(同)、伊藤寿春(同)
 - 伊藤正隆(同)、藤原孝志(同)
 - 田村修一(同)
 - 【第四分団】菊地政春(団員)
 - 菊地三郎(同)
 - 【第五分団】武田新悦(団員)
 - 三浦林一(同)
 - 【第六分団】安田安範(団員)
 - 【第十一分団】渋谷雪雄(団員)

- 男鹿地区連絡協議会長表彰**
- ☆五年勤続章
 - 【第二分団】戸田征一(団員)
 - 加藤邦雄(同)
 - 【第三分団】藤原正己(団員)
 - 【第四分団】菊地豊(団員)
 - 菊地徳蔵(同)
 - 【第六分団】安田喜久男(団員)、安田正一(同)、石川徳太郎(同)
 - 【第七分団】桜庭菊男(団員)
 - 【第八分団】佐々木幸博(団員)
 - 【第十一分団】菅生義広(団員)
 - 【第十二分団】菅原鉄雄(団員)、菅原易太郎(同)

- 一般協力者表彰**
- 石黒康郎(天王)、児玉金一(江川)、見上清文(二田)、加賀谷仁一郎(下出戸)、渋谷克己(追分)、米谷小太郎(塩口)

農家数の減少が著しい天王町

農業基本調査より

昭和五十一年二月一日現在の農家調査における天王町の農家戸数は、一千二百九十五戸と、昭和三十八年度の一千四百三十三戸をピークに下降線をたどり、過去数十年の最低を示し、当町総戸数の三十二・三%に当っている。

昭和四十年と比較すると、(表一)百十七戸、八・三%の減少となっており、全県では四・八%の減少となっているので、当町の減少率は著しい。また専業農家の減少は著しく、昭和四十年から六十二・四%の減を表明している。兼業をみると、全体的には〇・三%の減ですが、一種兼業と二種兼業の順位が入りかわり、昭和四十年の一種兼業は全農家の五十一・一%(七百二十一戸)、二種兼業は三十三・一%(五百十戸)を示しているのに対し、昭和五十年では一種兼業は二十三・五%(三百五十五戸)、二種兼業は七十一・二%(九百二十二戸)と表わされている。これは全県と比べ、二種兼業農家が著しく多く、当町農業の特徴の一つを表わしている。

内容的にみると、専業農家については、大規模農家は少なく、小規模農家の専業、即ち、他からの仕送りのや、年金などによって生活を維持できる農家で、耕作面積が十〜二十アール程度の農家が専業農家の大半を占めているものも当町の農業形態の特徴の一つである。

また兼業農家は、出稼ぎや近隣市町村への勤労の給料、賃金の高騰による兼業収入が農業収

入を上回っていることを示している。近年兼業収入は男性だけではなく、主婦でも農閑期を利用して、町内の電気機械器具関係の工場などで働く機会が容易になったことも、二種兼業農家が大半に増えた原因とみられる。

また農家人口も年々減少し、昭和四十年からみると二十一・四%の減、農業就業人口においては二十九・四%と減っている(表三)

経営耕地面積の減少

表四から、当町の経営耕地面積は、四十四年度を境に下降しているが、県全体では四十五年までは上昇、四十九年度までは下降、五十年には三十%(四千二百三十五ヘクタール)の増を示している(これは、大潟村の第五次入植分四千二百五十九ヘクタールが大きなウエイトを示すもの)。当町の下降の要因としては、秋田市、男鹿市のベツトタウンとしての宅地開発によるものと思われる。

表五でみられるように、耕作面積は請負耕作もからんで、年々大型化はしているが、一農家当り一・二六ヘクタールとなり、県平均の一・二九ヘクタールよりは低い。

小規模農家は耕作を委託し、農外収入に頼っている感がみられる。この表でみられる例外規定農家とは、耕作面積が十アール未満、あるいは耕作面積が全

ル未満、あるいは耕作面積が全然なくとも農作物総販売金額(養豚、養鶏、養蚕等による販売金額)が十万円以上の農家のことである。

農機具の普及の増加

農機具の所有台数(表六)をみると、昭和四十四年度から五十年までの約十年間に十馬力以上の耕耘機、農用トラクターは五倍強、動力刈取機は十八倍強、乾燥機は四十五倍のそれぞれの増を示している。田植機、コンバイン、自走式脱穀機をはじめ農機具の普及度は著しい。五十年においては、耕耘機、トラクターは、一・七戸に一台、田植機三・四戸に一台、動力刈取機は二・九戸に一台、コンバイン七・四戸に一台、自走式脱穀機四・一戸に一台、動力もみすり機、三・二戸に一台、乾燥機七・二戸に一台となっている。

当町の農業は、農業就業人口が、耕作面積の減少より上回っている。これは大型農用機械を取り入れることによって他の産業で働く期間が長くなり、兼業収入を多くもたらし、それが兼業農家が第一種兼業から第二種兼業へと移行させている原因を表わしているのではないだろうか。

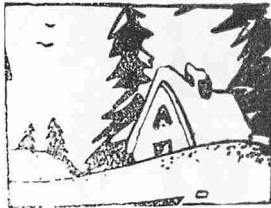


表4 総経営耕地面積の推移

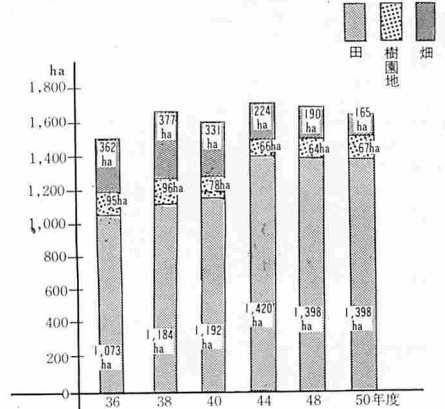


表7 総人口と農家人口の推移

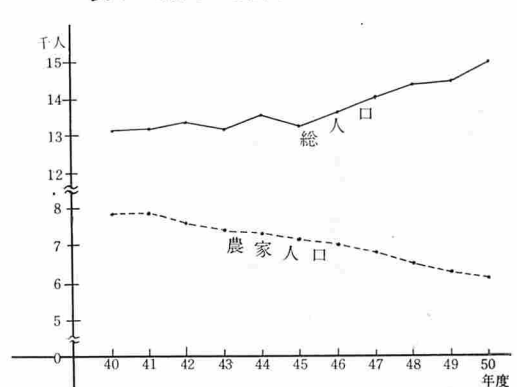


表5 経営規模別農家数の推移

年度	例外規定	10~49a	50~99a	100~149a	150~199a	200~249a	250~299a	300a以上	1農家当り耕作面積
40	7	321	379	299	187	113	66	40	1.13ha
45	4	282	377	309	183	117	77	51	1.22
50	4	278	343	264	170	96	71	69	1.26

表6 農用機械機具所有の推移

年度	耕耘機 (馬力以下10馬力以上)	トラクター (馬力以上)	田植機	動力刈取機	コンバイン	自走式脱穀機	動力もみすり機	米麦用乾燥機
41	485	38	0	25	0	0	265	4
45	627	47	4	151	22	118	355	35
50	579	189	376	444	174	316	410	182

表1 農家戸数の推移

年度	専業農家	兼業農家	合計	専業率	兼業率	
35	1,339	232	584	17.3	39.1	
40	1,412	181	510	12.8	51.1	
45	1,400	79	642	5.6	45.9	
50	1,295	68	305	5.3	23.5	
秋田県	113,853	5,992	46,340	61,521	5.3	40.7

表3 農家人口及び農業就業人口の推移

年度	農家人口	男	女	農家人口率	農業就業人口	農家一人当り
昭和40	7,954人	3,954人	3,990人	60.6%	2,773人	5.6人
45	7,166	3,550	3,739	54.0	2,789	5.1
50	6,249	3,078	3,171	41.9	1,957	4.8

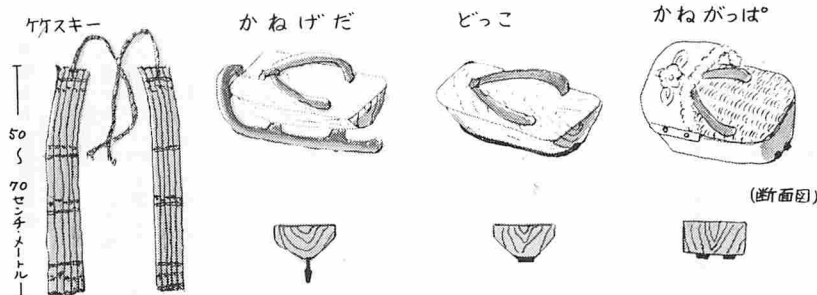
郷土史コーナー

雪すべり

雪を楽しむのは子どもの特権である。めぼしい山とてないこの土地では踏み固められた往還や坂になった小路が雪遊びの場であった。女兒はかねがねをはいて遊んだ。ぼっくり二本の巾広い鉄線を打ち込んだもので、ぞうりのようにひっぱるように滑った。

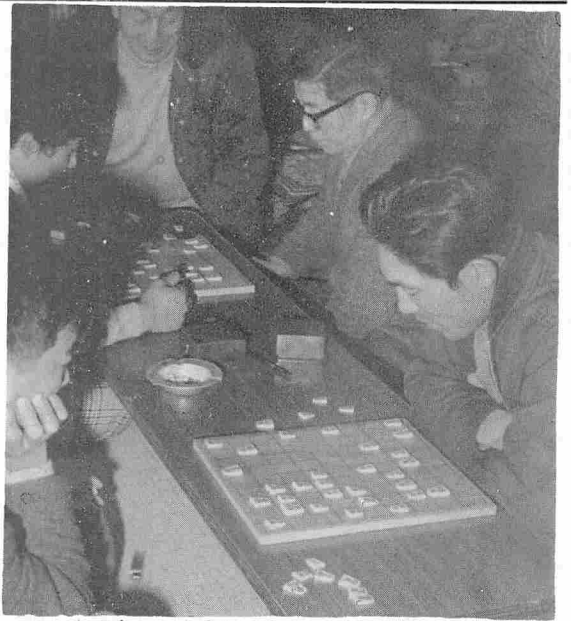
かねがねは足駄の台にスケートの金属部分をつけたようなもので下駄スケートとも呼ぶべきものであった。高く不安定であり、男児専用であった。溝のついたものは氷の上を滑走できたりつけた。どっこは男女兼用であり、男児はどっこからかねがねにはかきかえることを誇りとした。堆肥運搬の馬そりにそつとつかまっつて滑るのはスリル満点だった。三十年ほど前のことになろうか。

竹スキーは、くね竹で肥後守(小刀)を使って作ったものが滑走テストするまで期待に繋がった。これは今でも利用できよう。(石川記)



1手に気魄をこめて

新春将棋大会開かる



▲「ウーン」まいったナー（全町大会にて）

一月五日、天王町新春将棋大会が町公民館において行われた。当日は多数の参加が期待されたが思うように人が集まらず、大会関係者をガツカリさせた。しかし、大会内容はしのぎをけずる熱戦が展開され、あちこちの対局で各組とも「ウーン」と頭をかかえながら、一手一手に力をこめて駒を進めていた。成績は次のとおり

Aグループ
優勝 加藤要作（天王）
準優勝 鎌田健一（天王）
第三位 児玉鉄美（天王）
Bグループ
優勝 児玉留太郎（天王）
準優勝 藤原篤蔵（江川）
第三位 石川末五郎（北浦）

また、一月九日には天王町新春囲碁大会と南秋将棋大会が町公民館で行なわれ、南秋将棋大会では昭和町が圧倒的な強さをみせて優勝した。成績は次のとおり

A級
優勝 下田恭司（天王）
準優勝 加藤二郎（追分）

B級
優勝 松山 真（塩口北野）
準優勝 加賀谷正史（二田）

住民税 申告相談日程

月	曜日	対象地域	世帯番号 (上2ケタ)	会場
2	5	牛坂	52	牛坂分館
7	月	上北野・追分西	50.51	北野児童館
8	火	追分	53.54.55	追分分館
9	水	上出戸	48.49	上出戸分館
10	木	出戸新町	46	出戸新町分館
12	土	細谷	47	細谷分館
14	月	下出戸	44.45	下出戸分館
15	火	二田	31.32.33.34 35.36.37	天王町公民館
16	水	二田	38.39.40	二田児童館
17	木	二田	41.42	小野克太郎宅
18	金	児玉	25	児玉児童館
19	土	蒲沼	43.59	蒲沼分館
21	月	大崎	26.27.56	大崎分館
22	火	大崎	28.29.30	大崎分館
23	水	羽立	05.06	羽立分館
24	木	羽立	07.08	羽立分館
26	土	中羽立	04	中羽立分館
28	月	塩口	01.02.03	塩口分館
3	1	江川	21.22	江川児童館
2	火	江川	23.24	江川児童館
3	水	旭町・東荒町・西荒町	13.14.15	戸主会事務所
4	木	本町・下町	16.17	戸主会事務所
5	土	渋谷	09	渋谷分館
7	月	神明町・上荒町	10.11.12	天王本郷分館
8	火	曲町上・曲町下	18.19.20	天王本郷分館
9	水	塩口北野・羽立北野	57.58	塩口北野集会所

※時間は平日午前9時30分から午後3時30分までです。
ただし、土曜日は午前9時30分から12時まで。

住民税の申告が始まります

—2月5日～3月5日まで—

所得税、町、県民税の申告時期にともない二月五日から町内二十二ヶ所で「所得申告指導」を行います。申告相談によって申告される方は別表の日程で行ないます。が、所得税申告者は後日、日時などを通知しますので指定された日に申告をしてください。申告を必要とする方は、昭和五十二年一月一日現在で天王町に住所を有する方、他、住民登録の有無によらず、実質的な生活の本拠が天王町にある方も申告義務者となります。申告書の提出にあたり、注意

二十日に家庭バレーボール大会

来る二月二十日、第二十七回天王町家庭バレーボール大会が町公民館、天王小体育館を会場に行われます。町公民館では、若妻と壮年の部、天王小体育館では主婦と青年の部が実施されます。年部の部が実施されます。チーム編成は、女子、若妻の部、満三十一歳未満八名、主婦の部が満三十一歳以上八名。▽男子青年の部、満三十八歳未満六名、壮年の部、満三十六歳以上六名となっており、補欠は各部とも三名以内とする。▽参加資格は既婚者で町内に在住している者であること。▽試合方法は、各部ともトーナメントとし敗者復活戦を行なう▽申込み及び監督会議は、二月十五日（火）午後六時三十分までにメンバー表を添えて天王町公民館にお申し込みください。又、抽選のための監督会議は十五日午後七時より行ないます。参加者は、大会当日、午前八時三十分までに町公民館に集合してください。

天王町短歌会

追分 吉田四郎
吹雪く夜に歌集「さざんか」読みかえす冬詠みし歌巻頭かざる
渋谷 桜庭あやえ
年の瀬に神主の居らぬ古宮を掃き拭き清め花そなえ帰る
天王 児玉俊一
きりきりと弓弦引きつめひょうと射るはげしき気魂わが歌に欲し
追分 鷺谷哲男
金婚の記念出版成し遂げし吉田三郎なお衰えず
二田 渡部ツナ
年あけて眼を病み眼科の窓口につましく佇り気負いをすてて
羽立 鈴木秀夫
冷害の青刈に泣きし田の面に初日の光り限なく照らせり

俳句

天王町俳句会

追分 鶴谷トシ
護符焼けば雪緋色に昏れゆけり
下出戸 佐々木汀月
賀まつ心人待つ心地して
天王 米谷冬華
民俗誌の埃り払う寒九雨
追分 安田鹿山
初詣でしかと初孫の重さ抱く
天王 京谷蒼湖
ふるさとの雪あたたかき帰バス
渋谷 戸田榮春
つがななきこの一年は鐘とゆく
天王 児玉伯秋
古稀近し雪の降る日は筆嚙みて
牛坂 藤原トシ
庭の木を丸く包んで寒の雪
追分 渡部六愁
捨て難き義理を重ねて寒に入る

